

2023年6月14日

各位

株式会社北洋銀行

## 2023年度「ほっく一基金」助成先を決定しました ～北海道の生物多様性保全に取り組む21団体へ総額550万円を助成します～

北洋銀行は、北海道の生物多様性保全に取り組まれている21団体を、2023年度「ほっく一基金北海道生物多様性保全助成制度(以下、ほっく一基金)」助成先として決定しました。

ほっく一基金は、北海道における生物多様性保全のため、希少種保護や生息環境の整備等に取り組む様々な団体へ寄付金をお送りするものです。2023年度は「ほっく一コース(助成金額上限100万円)」に11件、「トムコース(助成金額固定10万円)」に16件の応募があり、ほっく一基金選定協議会による厳正な協議の結果、下記21団体へ総額550万円の活動資金を助成することを決定しました。これにより、ほっく一基金による寄付は8,540万円(延べ166先)となります。

当行は今後も、社会課題の解決に取り組むことを通じて、全てのステークホルダーと地域社会・環境の持続的発展に貢献してまいります。

### 【贈呈式の様子】



各団体における活動の詳細につきましては、別紙をご参照願います。

以上



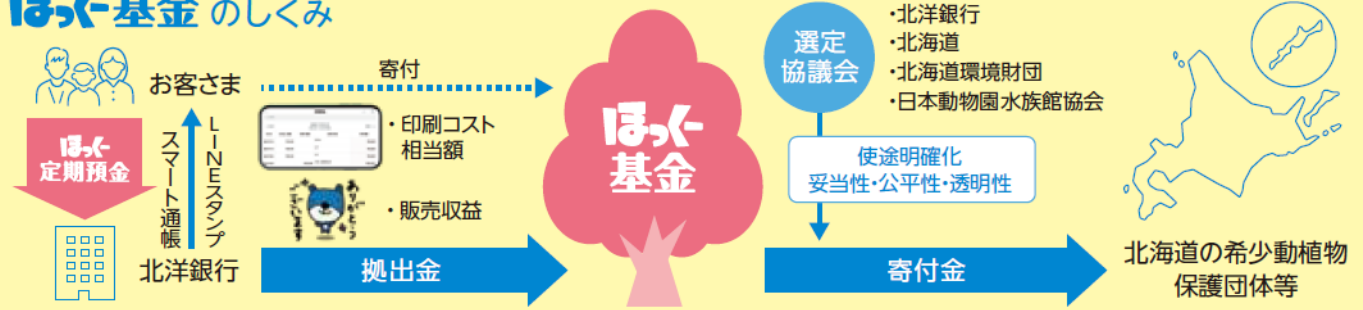
北洋銀行グループは、2018年12月「北洋SDGs宣言」を表明し、地域の持続的成長支援と社会的課題の解決に取り組んでおります。なお、SDGsに関連するプレスリリースには、該当するSDGsのアイコンを明示しております。

【SDGs】2015年の国連サミットで採択された、持続可能な世界を実現するための2030年までの国際目標。17のゴールと169のターゲットで構成される。

# ほくー基金

【2023年度寄付先のご紹介】

## ほくー基金 のしくみ



・スマートフォンアプリ「ほくようスマート通帳」による通帳デジタル化に伴う紙通帳の印刷コスト相当額・ほくーのLINEスタンプ販売収益を基金へ拠出します。

## 2023年度寄付先について

2023年度は総額550万円を寄付します。寄付先の選定に際しては「ほくー基金選定協議会」での協議に基づき、「ほくーコース」9先と「トムコース」12先の計21先に決定しました。※（ ）内は、主な活動地域

### ほくーコース

- ① 北海道キノコの会 (江別市)
- ② 羽幌みんなでつくる自然空間協議会(羽幌町)
- ③ NPO法人地域自然活動センター森・水・人ネット (伊達市)
- ④ 特定非営利活動法人北海道シマフクロウの会 (北海道内各地域)
- ⑤ 特定非営利活動法人ふらっと南幌(南幌町)
- ⑥ 石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク (石狩川下流域)
- ⑦ 釧路自然保護協会(釧路川流域)
- ⑧ 特定非営利活動法人西興部村猟区管理協会 (西興部村内)
- ⑨ 特定非営利活動法人TSUNAGU (札幌市近郊都市)

### トムコース

- ① 繋ぐのは命プロジェクト(旭川市近郊)
- ② オホーツク魚類研究会(美幌町)
- ③ 黒松内ぶなの森自然学校運営協議会(黒松内町)
- ④ 里見緑地を守る会・どんぐり(北広島市)
- ⑤ 旭山自然調査隊(札幌市)
- ⑥ 大雪と石狩の自然を守る会(大雪山国立公園)
- ⑦ 特定非営利活動法人ビオトープ・イタンキin室蘭 (室蘭市)
- ⑧ 水車・アヤメ川自然公園を育てる市民の会(伊達市)
- ⑨ 石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会(石狩市)
- ⑩ 宮島沼の会(美唄市)
- ⑪ 利尻島ウミネココロニーについて考える会(利尻島)
- ⑫ 北海道大学狩猟同好会カリブ(札幌市)

## ほっくーコース①北海道キノコの会

1. **活動名称** 野幌森林公園における北海道博物館との共同調査（キノコなどの菌類）

2. **主な活動地域** 江別市

3. **活動内容**

野幌森林公園では動物、植物などの調査研究などは進んでいますが、菌類についてはあまり進んでいないようです。

令和4年5月より野幌森林公園で事前調査を進めてきましたが、令和5年度より本格調査のため実施計画を立てました。

4. **採択金額** 600千円

5. **選定協議会での採択理由・意見など**

- 野幌森林公園においてメンバー中心に毎月調査を行い、最終的に標本を北海道博物館に寄贈するところが評価できる
- メンバーが全道各地に居住しているため、移動にかかる燃料費が多い



## ほっくーコース②羽幌みんなでつくる自然空間協議会

1. **活動名称** ビオトープ公園「自然空間はぼろ」の開放水面再生事業

2. **主な活動地域** 羽幌町

3. **活動内容**

ビオトープ公園「自然空間はぼろ」にある開放水面を生き物でにぎわう空間へと再生し、子供たちをはじめとする地域住民が多様な生き物と触れ合い、身近な自然環境について学ぶことができる場所にするため、水環境が悪化している「ひょうたん池」と「せせらぎ池」の排水、浚渫、池周辺に繁茂する水生植物の刈り取り作業を実施する。

また、ビオトープ公園の見学会や自然観察会、茅葺屋根を作る体験会等のイベントを開催し、自然環境の復元や生物多様性の重要性を知ってもらうと共に、地域住民と協力して池の再生事業を実施する。

活動内容は随時、SNSや会報誌で公開・発信する。

4. **採択金額** 400千円

5. **選定協議会での採択理由・意見など**

- 団体が管理しているビオトープ内にある池を浚渫し、多様な生物の生息空間を復活させる。
- 作業には多様な主体が関わり、活動の拡がりが見える。
- 水生植物の繁茂が逆に富栄養化の原因となっており、腐敗する前の刈り取り、有効利用に結びつける面が興味深い。



## ほっくーコース③NPO法人地域自然活動センター森・水・人ネット

1. **活動名称** 北海道伊達市有珠湾の自然環境調査と保護活動

2. **主な活動地域** 有珠湾の干潟と湾岸（伊達市）

### 3. 活動内容

有珠湾は北海道唯一で日本最北のコメツキガニ生息地である。護岸建設や干潟の埋め立てによりその生息場所は大きく失われ絶滅の危機に瀕している。しかしこのカニの生態や生息環境について十分な調査は行われていない。カニの生息環境を保全する意義について、多くの市民や子供たちに関心を持ってもらうこと、その活動に参加してもらう機会を創出したい。その為にはコメツキガニとそれを取り巻く自然環境の調査は欠かせない。調査結果を踏まえ環境保護活動を推進することが目標である。



4. **採択金額** 300千円

### 5. 選定協議会での採択理由・意見など

- 北限の生息種を含めた自然環境の現状について、調査を通じて把握し環境保全の意識を醸成しようというもの。
- 地域住民の理解は、保全活動に取って非常に重要である。
- 専門家による調査支援を仰ぐなど活動内容や資金使途も的確である。



## ほっくーコース④特定非営利活動法人北海道シマフクロウの会

1. **活動名称** 北海道の生物多様性保全と絶滅危惧種シマフクロウの保護活動に関する広報・啓発

2. **主な活動地域** 北海道内各地域

### 3. 活動内容

シマフクロウ保護活動と生物多様性保全について、定期的に保護活動の状況やシマフクロウの生態などの情報を発信して、広く理解を深めるため機関誌「北海道シマフクロウ通信」を年3回発行して、道庁、札幌市、道立図書館、札幌市円山動物園、釧路市動物園、旭川市旭山動物園、根室市歴史と自然の資料館、釧路湿原国立公園ビジターセンターなどの公共施設や賛助会員などに配布している。

4. **採択金額** 200千円

### 5. 選定協議会での採択理由・意見など

- シマフクロウ保護活動と生物多様性保全への理解促進のため、会報誌を作成する活動
- 設立10周年会報誌作成費用。



## ほっくーコース⑤ 特定非営利活動法人ふらっと南幌

1. **活動名称** 石狩川下流域で消失したミズゴケ湿原再生のためのミズゴケ栽培・移植

2. **主な活動地域** 夕張川高水敷泥炭採取跡地（南幌町）

### 3. 活動内容

かつての幌向原野中央に位置する南幌町では、開拓の過程で石狩低平地固有の湿原環境が失われました。2011年に故辻井達一先生が夕張川の泥炭採取地を訪れ、当地に湿原環境再生の可能性が残っていること、「幌向」を冠する7種の植物があることを示唆したのを契機に、当法人では湿地観察・学習会等の開催を通して当地での湿地再生を目指す活動を重ねて参りました。2013年から河川管理者、専門家との協働で、湿原植生群落再生と活用に向けた「ほろむい七草プロジェクト」を立ち上げ、江別太で見つかったミズゴケ保護と栽培増殖に取り組むことで、2021年にミズゴケ増殖と湿原再生地への移植に関する技術の確定に至り、2022年は本助成を得てミズゴケ栽培・移植を本格的に開始することができました。

4. **採択金額** 500千円

### 5. 選定協議会での採択理由・意見など

- 活動によって技術を確立したミズゴケ増殖の本格展開となる
- 湿地復活に欠かすことのできないミズゴケの増殖をイベントを通じて行うことにより、生物多様性保全への理解促進や環境教育の一環となっている



## ほっくーコース⑥ 石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク

1. **活動名称** 残したい湿地をMAPに！そしてもっと身近にVRから湿地へプロジェクト

2. **主な活動地域** 石狩川下流域

### 3. 活動内容

#### 1. 湿地保全WEBマップ作成

残存する湿地を整理しつつ、位置情報や敷地規模、生息生育種等の情報について一般が閲覧可能な湿地保全WEBマップの作成を行う。

- #### 2. 湿地VR制作により、若者等ゲーム世代の湿地への関心を楽しく高める
- 仮想空間において多くの生き物や植物と出会うことにより湿地の生き物への関心を高め、湿地ファンを増やし、そのことによって湿地の自然環境と湿地の文化を将来に繋いでいく。そのため、湿地のオリジナルキャラクター制作・VRを使用したYouTubeの撮影・湿地の世界制作とキャラクターモデリング・ワールド制作体験を行う。

4. **採択金額** 700千円

### 5. 選定協議会での採択理由・意見など

- MAP利用による見える化によって保全する湿地の存在を啓発する
- 若者への関心喚起のため、VRを使い、湿地を身近な存在と捉えられるよう環境教育の一環とする
- 現場での活動は少ないが、DBとして残り、環境教育の素材として今後につながる取り組みと考える



## ほっくーコース⑦ 釧路自然保護協会

1. **活動名称** 釧路川流域におけるイトウ個体群再生の取組

2. **主な活動地域** 釧路川流域

3. **活動内容**

釧路川流域では、1960年代にはおよそ30の支流でイトウが繁殖していたが、1970年代以降の河川改修や乱獲の影響を受けて、個体数が大幅に減少し、現在、繁殖が確認できるのは6から7の支流に留まっている。本事業においては、釧路川水系の河川において、産卵床から採集した卵を飼育環境下で1～2歳魚まで育成した後に、絶滅危機河川に放流（再導入）をおこなうことで釧路川水系の個体群を再生する。

4. **採択金額** 500千円

5. **選定協議会での採択理由・意見など**

- 4年間にわたり本助成制度で魚道設置を支援している。
- 前年よりモニタリング段階に入り、今回申込より保護増殖段階の取り組みとなった。



## ほっくーコース⑧ 特定非営利活動法人西興部村猟区管理協会

1. **活動名称** 令和5年度西おこっぺ村ワイルドライフ教室

2. **主な活動地域** 西興部村内

3. **活動内容**

- ① 住宅地や商店街、林内など村全域をフィールドとし実際に歩き回りながら村内の自然の豊かさ、美しさを再確認し記憶に残す。
- ② 1泊2日のキャンプを通し、野外炊飯や集団行動などのルールやマナーを学びながら、ネイチャーゲーム等を通じて自然の中で遊ぶ楽しさを体感する。
- ③ 冬の森の中を探索し、野生動物の痕跡や冬の林内の特徴について学ぶ。実際に調査に用いられる道具を使用し体験する。

4. **採択金額** 500千円

5. **選定協議会での採択理由・意見など**

- 自然豊かな地域においても子どもたちが自然に触れ合う機会が少なく生物多様性保全の意識醸成が生まれていない
- ネイチャーゲームを通じて自然環境を学ぶことを評価
- 調査の体験活動もあり、将来の担い手育成につながる
- 資金計画も非常に詳細に立てられている



## ほっくーコース⑨特定非営利活動法人TSUNAGU

1. **活動名称** ヒトとヒグマを守る「ヒグマを寄せ付けない街づくり」普及活動

2. **主な活動地域** 札幌市近郊都市

### 3. 活動内容

近年札幌は、ヒグマの市街地出没数に対し、市民の関心が低い現状があり、市民のヒグマに対する理解関心が急務です。本活動は市民と共に「ヒグマを寄せ付けない街づくり」=「ヒトとヒグマが共存できる環境」を目標とし、ヒグマ学習、ヒト起因の環境を作らない為の普及活動を実践します（ヒグマを理解するための学習、ヒグマ検定の構築、ヒト要因の環境を作らない為の行動としての草刈り、ゴミ拾いの実践）。この普及活動のポイントは、今までの行政主体のヒグマ対策から、市民主体で自らが学習・実践することで、北海道の環境保全に対し「他人事」から「自分事」へ意識変化を促し、北海道の生物多様性保護と持続可能な環境保全に寄与出来るものです。



4. **採択金額** 600千円

### 5. 選定協議会での採択理由・意見など

- ヒグマの生態など正しく理解し、ヒトとの共存を目指す事業
- 過去に採択したヒグマの出没を抑える草刈りなどの取り組みを実施



## トムコース①繋ぐのは命プロジェクト

1. **活動名称** 繋ぐのは命プロジェクト

2. **主な活動地域** 旭川市

3. **活動内容** 北海道の環境問題を通して野生動物の命の尊さを知ってもらうとともに人と野生動物が共に暮らせる未来を目指すことを目的として活動を通じ「知る」ことから広がる未来へつなぐ活動

4. **選定協議会での採択理由・意見など**

- 過去の報告によると主に子ども向けとなっており、専門家による解説や動物園などの実体験は有用なことと考える
- 新規申請先であり、過去の実績からも事業実施に問題ないと考えられるため、採択とする

## トムコース②オホーツク魚類研究会

1. **活動名称** 農業用施設用のポータブル魚道設置

2. **主な活動地域** 美幌町

3. **活動内容** 溜池や水田などの農業用施設は、湿地に代わる生物の生息地として、様々な恩恵をもたらしてきた。しかし、多くの施設は、構造に問題があるため、せっかくの生息地がすべて生き物に利用できていない場合がある。美幌町には、道内屈指の大きさを誇る溜池があり、様々な生物の生息場所となってきた。しかし、溜池内にある段差が、魚の移動を妨げる欠点があった。本活動では、溜池内に魚道を設置し、魚が自由に移動できるようにする。これまでの活動で、短時間であれば十分に魚道が機能することが明らかになったため、今後は長期運用できる魚道を作成する。

4. **選定協議会での採択理由・意見など**

- 昨年、ほくこコースで採択した温水溜池での魚道設置について、長期運用を図る取り組みである
- 活動の趣旨や事業実施についても懸念はなく、重要な取り組みと考える

## トムコース③黒松内ぶなの森自然学校運営協議会

1. **活動名称** 黒松内の里山・森林保全プロジェクト～間伐材を使ったクラフト木育活動を通じて～

2. **主な活動地域** 黒松内町

3. **活動内容** 黒松内町内で活用されず、廃棄されている間伐材を活用し、年間4回程度のクラフト体験の木育活動を主に小学生対象で積極的に行う。間伐材を日常生活で使うクラフト（スプーンやストラップ）に加工することで、木とともに生きる機会を創出する。クラフトの木材としての魅力が伝わることで、地域の森林環境を大切にする（森林循環）意識の醸成を目指す。その活動に地域の方がボランティアで関わることで、木育の地域内交流が生まれ、活動の人的ネットワークの構築や活動ノウハウを広め、里山・森林保全での活動の機運を高めることができる。

4. **選定協議会での採択理由・意見など**

- 小学生を対象に間伐材を使ったクラフト活動を行うことにより、森林循環や環境教育、森林保全、地域内交流を図るもの
- 直接的な生物多様性保全の趣旨は薄いですが、さまざまな種を育む森林環境の保全につながり意味はあると考える
- 共催団体や関わる主体も幅広く共感性も高い

## トムコース④里見緑地を守る会・どんぐり

1. **活動名称** 里見緑地生物多様性保全推進活動

2. **主な活動地域** 里見緑地

3. **活動内容** 1. 植樹・育樹、風倒木・支障木の除伐を行い、緑地内の緑化の推進と保全を行っている。2. 風倒木・支障木の丸太や枝を苗木の支柱、丸太ベンチ、木橋や展望台の土台、遊歩道の展望柵、土留丸太・木杭に利活用している。3. 遊歩道、広場、苗畑、木橋、木製テーブル、丸太ベンチ、展望台、展望柵、案内標識、注意標識、樹名板等を整備している。4. 植樹地・育樹地、広場、遊歩道等の草刈りと清掃、安全点検等を行っている。5. 自治会主催の夏祭り会場の整備や遊歩道散策会の支援を行っている。6. 「里見緑地ガイド」や「里見遊歩道マップ」を作成・配布している。

4. **選定協議会での採択理由・意見など**

- 北広島市内の市街地緑地を里山として調査・保全することで、生物多様性保全を図る取り組み
- 道内金融機関からの寄付支援（2022年度）を受けており、団体としての信頼性は高い



## トムコース⑤旭山自然調査隊

- 活動名称** わたしたちの守るもの
- 主な活動地域** 旭山記念公園と周辺の都市環境林（札幌市）
- 活動内容** 水辺の環境や在来の樹林を保全することで、希少種や生き物の多様性を守る活動をしています。多くの生き物の繁殖地を将来的に守ることで、身近に残る自然や命の尊さを知り、地域の魅力を発見してもらいたいです。本団体の活動は、今年で7年目になりますが、調査に留まらず自然観察会や近隣小学校への環境教育支援も行っていきたいです。参加者の年齢層が中学生から未就学児と幅広いので、異学年交流をはかります。調査活動や自然観察会では外部講師や学生ボランティアを起用しフィールドワークでの人材育成にも力を注ぎます。
- 選定協議会での採択理由・意見など**
  - 小学生を対象に旭山記念公園周辺の都市林をフィールドに自然環境教育を実施している
  - 主に体験型の自然観察会を通じて、自然や命の尊さを教育する



## トムコース⑥大雪と石狩の自然を守る会

- 活動名称** 大雪山自然講座「ひぐま大学」
- 主な活動地域** 大雪山国立公園
- 活動内容** 大雪山系を主なフィールドに、四季を通じて実施される市民対象の自然観察講座です。これらの山々を実際に登って、大自然の成り立ちや営み、そこに生きる動植物や地形などについて学び、このかけがえのない恵み豊かな自然をよりよい姿で次世代に引き継ぐことを活動の趣旨にしています。
- 選定協議会での採択理由・意見など**
  - 大雪山に関する学習会の実施
  - 火山の成り立ちと高山植物の分布と生態について学ぶ
  - 実際に登山をして講座を実施するとあり、保全意識の形成については有効な手段と考える

## トムコース⑦特定非営利活動法人ビオトープ・イタンキin室蘭

- 活動名称** 「獲物のあるビオトープ」での自然体験学習
- 主な活動地域** 潮見公園内（室蘭市）
- 活動内容** ビオトープでの小学生の自然体験を受け入れています。授業として一学年100名ほどが参加し、いつも大人気です。シオカラトンボの翅のブルブル、網の中ではねるトミヨ、強かつまんで潰れてしまったオタマジャクシ。かつては多くの人の子供時代に体験したことですが、現代の子供達はリセットボタン一つで全てやり直しのさく「ゲーム」に浸って成長しています。「獲物のあるビオトープ」では子供達が自由に遊び採集もできます。小さな狩の体験に子どもたちは夢中になります。ゲットした獲物は希望者には飼育の指導をして持ち帰らせてます。現実には短期間で死なせてしまうケースも多いのですが、そうした体験を通じて命の大切さが理解されています。
- 選定協議会での採択理由・意見など**
  - 小学校と連携した自然体験学習の活動・事前学習などを行い、児童の興味関心を喚起する内容となっている
  - 昆虫や魚類の採集から命の大切さを学ぶ

## トムコース⑧水車・アヤメ川自然公園を育てる市民の会

- 活動名称** 生物多様性を保全・保護し、自然環境の魅力を高め次世代につなげ、市民と共に活用する活動
- 主な活動地域** 水車・アヤメ川自然公園（伊達市）
- 活動内容** 1983年に水車・アヤメ川自然公園が開園して以降、伊達市民や各種団体が取り組んできた「公園を作る」活動は「公園を育てる」活動へと移行しています。当会は、改めて公園の魅力を地域の方々に発信・周知することを目的にパンフレットや園内に案内看板を作成したり、自然観察会を行い直に魅力に触れてもらったりする活動を行っています。
- 選定協議会での採択理由・意見など**
  - 伊達市内にある自然公園の魅力を発信するため、さまざまな活動に取り組んでいる
  - 通常の観察会・調査活動・広報活動に加え、今年開園40周年を迎えることから記念行事を行う
  - 各活動の趣旨や方向性が整理され、周年事業により関心喚起に取り組むなど活動の意義は深いと考える



## トムコース⑨石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会

- 活動名称** ハマナスの持続可能な利用による地域への環境保全啓発事業
- 主な活動地域** 石狩浜（石狩市）
- 活動内容**

ハマナスの自生地を訪れ、ふれあうことで、石狩浜の自然環境への関心喚起と保全への参加を促すため、おもに親子をターゲットとした、ハマナスの花摘み体験やハマナスの食や美容への利活用、ハマナスを通じた自然の学びなどをブース展開するイベント「はまなすフェスティバル」を開催する。また、より意識の高い層をターゲットとしたハマナスの自生地について学ぶ観察会型セミナーと、利活用について学ぶセミナーワークショップを開催する。

### 4. 選定協議会での採択理由・意見など

- 参加型フェスティバルと観察会セミナーを通じて、ハマナスをはじめとする海浜植物保護への意識醸成を図るもの
- 海浜植物については、バギー車による踏みつけや直火によるバーベキューなどによる荒廃問題があり、重要性が高い

## トムコース⑩宮島沼の会

- 活動名称** セミナー「マガンの繁殖地ってどんな場所？」
- 主な活動地域** 宮島沼水鳥・湿地センター（美唄市）
- 活動内容** 宮島沼のラムサール条約登録20周年記念行事として、池内俊雄さん（雁の里親友の会）による講演会、マガンの捕獲追跡調査の結果報告と調査体験を実施する。
- 選定協議会での採択理由・意見など**
  - 宮島沼ラムサール条約登録20周年事業として実施
  - マガンの講演会などを通じて、渡りの中継地としての重要性を啓発する

## トムコース⑪利尻島ウミネココロニーについて考える会

- 活動名称** ウミネコの卵を見守り隊
- 主な活動地域** 利尻島
- 活動内容** 繁殖地の移動によって新しくできたウミネココロニーに当会がウミネコを見守っていることを記した立て看板と標識（ペグ）を立てることによって、コロニーの周辺住民による卵の違法駆除を抑止する。
- 選定協議会での採択理由・意見など**
  - ウミネコの卵の違法駆除を抑止する取り組み
  - 活動内容の記載が背景等も記載し、詳細でわかりやすい

## トムコース⑫北海道大学狩猟同好会カリブ

- 活動名称** 定着初期及び防除後期におけるアライグマ防除手法の検討
- 主な活動地域** 北海道大学構内及び札幌市
- 活動内容** アライグマの個体数密度の小さい定着初期及び防除後期は、餌を用いて箱罠に誘引し捕獲する手法では捕獲頻度に対して毎日の見回りや餌の入れ替え、錯誤捕獲など手間がかかる問題点が挙げられる。そこでアライグマが樹洞を寝床にする習性を利用した餌が不要の巣箱型罠に注目した。巣箱型罠は現在大分県で試験的に仕掛けられているものの、設置事例は少なく時期や地域特性による捕獲効率の違いなど不明な点が残されている。当同好会では定着初期と考えられる北大構内や札幌市丘陵地域に箱罠を仕掛け捕獲効率を調べる。また捕獲した個体は解体の練習や骨格標本など会員の研鑽に利用する。

### 4. 選定協議会での採択理由・意見など

- 専門家の指導の下、学生により外来種アライグマ駆除活動
- 巣箱型罠の効率やモニタリングカメラにより生態調査を行う

